

としだま
お年玉

「あと幾日寝ると、楽しいお正月が来る。」子供の時は、お正月が
 来るのを指折り数えて待ったものだ。おいしい料理が食べられるし、
 楽しい遊びをすることができるからだ。だが一番うれしいのは、大人から
 お年玉がもらえることだ。お父さん、お母さんを始め、親戚の人から
 「はい、お年玉だよ。」と言って渡された時のうれしい気持ちは
 今でも忘れられない。自分の部屋でお年玉の袋を開けてみて、予想外に
 たくさんのお金が入っていると、飛びあがって喜んだものだ。そして、
 「あれを買おう。いや、これにしよう。」といろいろな思いをめぐらしたりした。
 ところで、高度経済成長とともに、お年玉の金額もずいぶん増えた。今では
 5000円ぐらいが平均だそうで、いろいろな人からお年玉をもらい、1人で
 6、7万円も貯める子供があると言う。学校へ行くと、お年玉をいくら
 もらったかが、子供たちの間で関心の的になるらしい。子供に必要な以上の
 お金を与えることは、決していいことではない。子供のうちから「世の中は
 お金が全てである」という考えを持つようになることは、健全な姿とは
 言えないからだ。それに子供は、お年玉をたくさんくれる人はいいい人で、
 あまりくれない人はケチであるという考えを持ちやすい。

お年玉としだまをやる大人おとなから見ると、親戚しんせきの子こがたくさんいると、いろいろ悩むなや。年ねん

齢れいに応おうじてお年玉としだまの金額きんがくを決きめなければならないし、他たの親戚しんせきの人ひとよりも

あまりにも少すくないと、子供こどもに軽かるく見みられるからだ。そういうわけで、「少すく

多おほいかな。」と思おもっても、子供こどもに普通ふつうより多おほくお年玉としだまをやってしまうのだ。

頭あたまのいい子供こどもになると、そうした大人おとなの心理しんり状じょう態たいを巧たくみに利用りようして、

お年玉としだまをたかくくさん獲得かくとくする。

おとしだま

「あといくにちねると、たのしいおしょうがつがくる。」こどものときは、おしょうがつがくるのを ゆびおりかぞえてまったものだ。おいしいりょうりがたべられるし、たのしいあそびをすることができるからだ。

だが、いちばんうれしいのは、おとなから おとしだまがもらえることだ。

おとうさん、おかあさんをはじめ、しんせきのひとから

「はい、おとしだまだよ。」といって わたされたときの うれしいきもちはいまでもわすれられない。じぶんのへやで おとしだまのふくろをあけてみて、よそうがいに たくさんのおかねが はいっていると、とびあがってよろこんだものだ。そして、「あれをかおう。いや、これにしよう。」と いろいろおもいを めぐらしたりした。

ところで、こうどけいざいせいちょうとともに、おとしだまのきんがくも ずいぶんふえた。いまではごせんえんぐらいがへいきんだそうで、 いろいろなひとから おとしだまをもらい、ひとりで ろく、しちまんえんも ためるこどもが あるという。がっこうへいくと、おとしだまを いくらもらったかが、こどもたちのあいだで かんしんのまとなるらしい。

こどもにひつよういじょうのおかねを あたえることは、けっして
いいことではない。こどものうちから「よのなかはおかねがすべてである」
というかんがえをもつようになることは、けんぜんなすがたとは
いえないからだ。それに こどもは、おとしだまをたくさんくれるひとは
いいひとで、あまりくれないひとは ケチであるというかんがえを
もちやすい。

おとしだまをやるおとなからみると、しんせきのこがたくさんいると、
いろいろなやむ。ねんれいにおうじて おとしだまのきんがくを
きめなければならないし、たのしんせきのひとよりもあまりにもすくないと
こどもにかかるくみられるからだ。そういうわけで、「すこしおおいかな」と
おもっても、こどもにふつうよりおおく おとしだまをやってしまうのだ。
あたまのいいこどもになると、そうしたおとなのしんりじょうたいを
たくみにりようして、おとしだまをたくさんかくとくする。

紅封包

「只要再睡幾天,快樂的元旦就會來到了。」小時候,我經常數著手指盼待元旦的到來。因為元旦時既可以吃到好吃的菜,也可以玩愉快的玩意。可是最高興的還要算是可以從大人手中接過紅封包了。由父親、母親以至親戚各人口中聽到:「給你紅封包。」然後接過它的時候的喜悅,我現在依然不能忘記。在自己的房間把紅封包打開看看,如果裡面放著比自己預期中還要多的錢的話,那就真的高興得不得了。然後我就會不斷在心中盤算著:「買那個吧!不,還是選這個比較好。」

另一方面,隨著高度經濟成長,紅封包的金額亦隨之而增加了不少。現在聽說平均金額是五千日元。小孩子從不同的人手中接過紅封包,甚至有說一個小孩子也總共收到六、七萬日元!回到學校,收到多少紅封包,就會成為孩子間熱門的話題。給予孩子過多的金額,一定不是件好事。如果打從小時候就覺得「金錢就是世間的一切」的話,他們就算不上是心智健全了。而且,小孩子很容易就會覺得,給他多紅包的就是好人,給他不多的就是吝嗇的人。

從對派紅封包的成年人的角度去看,如果親戚孩子很多的話,就真的很令人頭疼。因為他得因應年齡去決定紅封包的金額,而且如果他比其他親戚給得少的話,就會給小孩子看扁。因此,即使心裡想:「是否多了一點呢?」,他也會給孩子比平均金額要多的紅包。如果聰明的孩子,就會巧妙地利用成年人的這種心態,去獲得很多的紅包。